

LTEにおける事業機会

2011年9月22日
アンリツ株式会社 経営企画室
杉田 俊一



TSE code : 6754
<http://www.anritsu.com>



注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

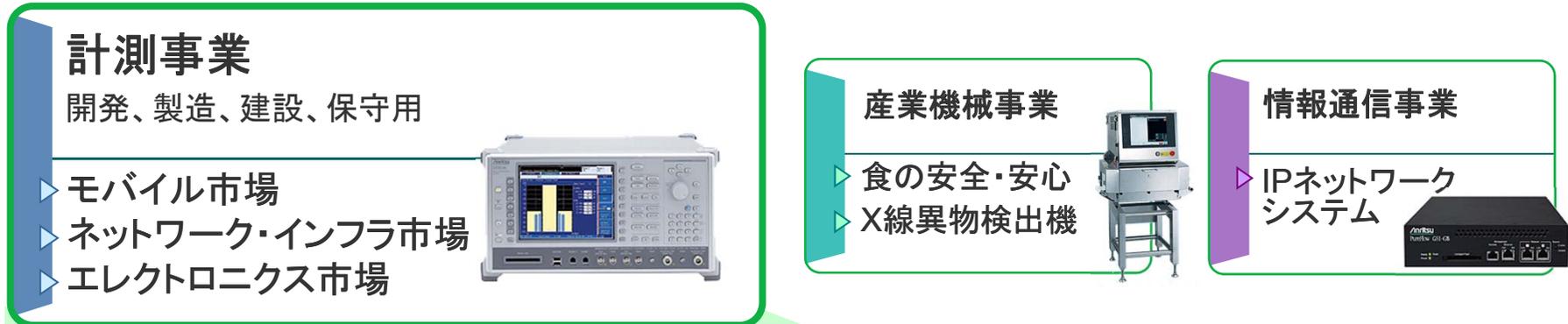
なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

1. 事業概要
 2. モバイルブロードバンドの進展と計測ビジネス
 3. アンリツのLTE関連ビジネス
 4. 中期経営計画GLP2012とAnritsu120
- Appendix**

1. 事業概要

2011年3月期 売上高(連結) : 779億円



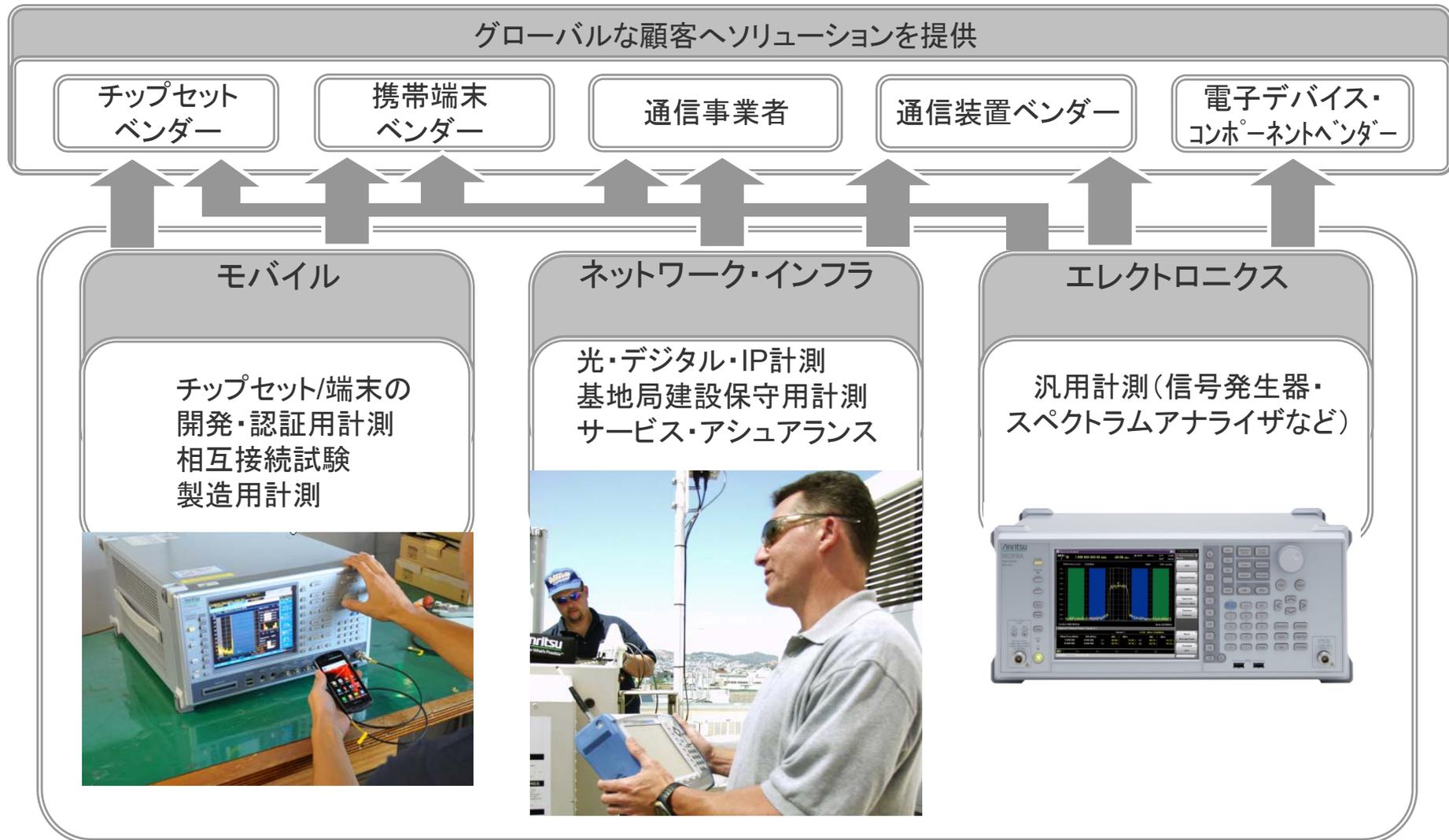
計測 69%			産業機械 16%	情報 5%	その他 10%
モバイル 34%	ネットワーク・インフラ 36%	エレクトロニクス 30%			

LTE関連ビジネスは全ての領域に存在

(計測事業 地域別売上比率)

日本 27%	米州 33%	EMEA 18%	アジア他 22%
-----------	-----------	-------------	-------------

1-2 計測事業の顧客と提供ソリューション



2. モバイルブロードバンドの進展と計測ビジネス

2-1 モバイルブロードバンドの進展

- ①新アプリケーション、サービスの充実と普及
- ②スマート端末の新モデル販売競争
- ③携帯加入者数の増加

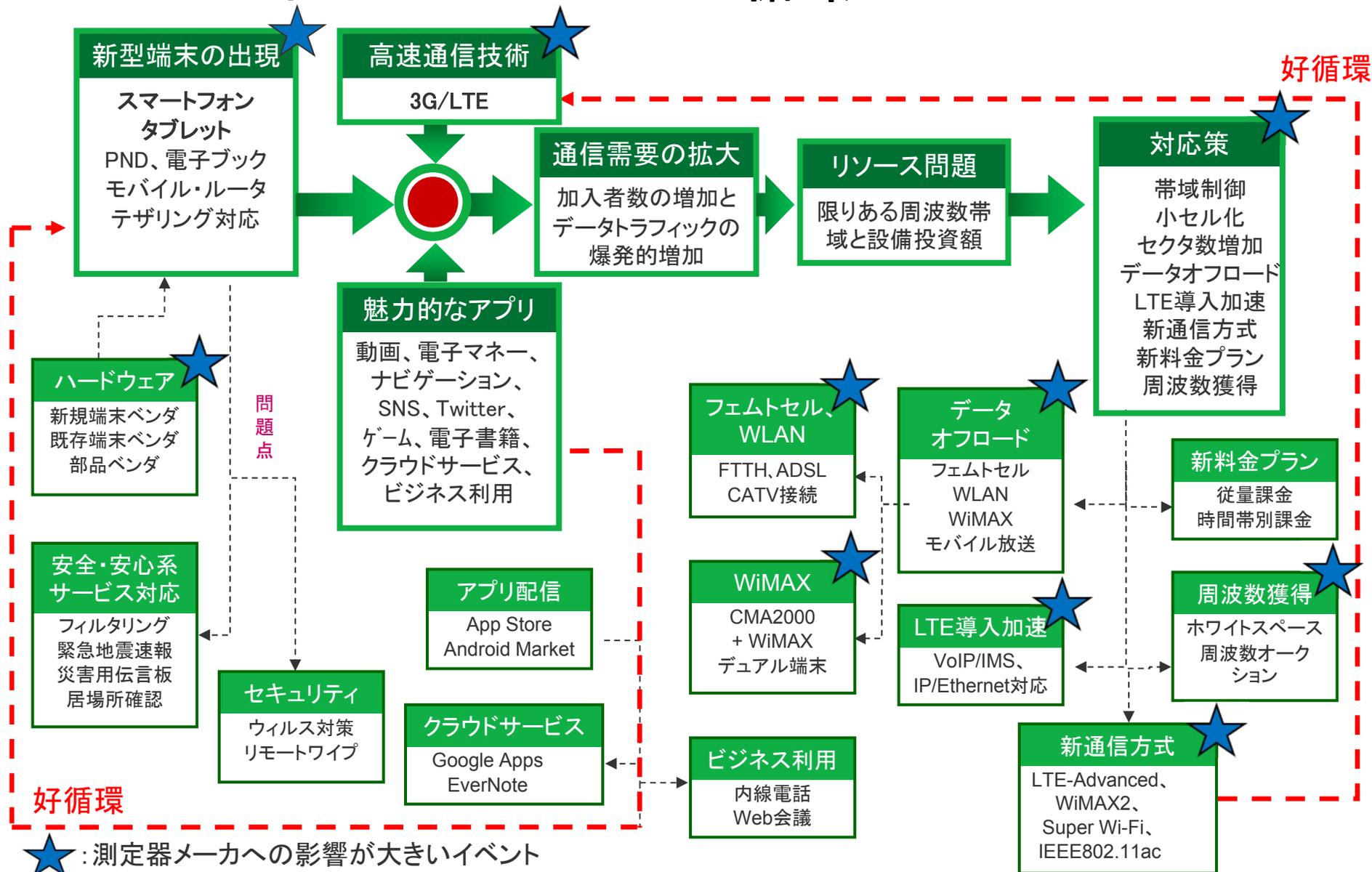
モバイルデータトラフィックの急激な増加

モバイルネットワークのブロードバンド化

- ・3G/LTEの進展
- ・W-LAN、WiMAXなどの併用

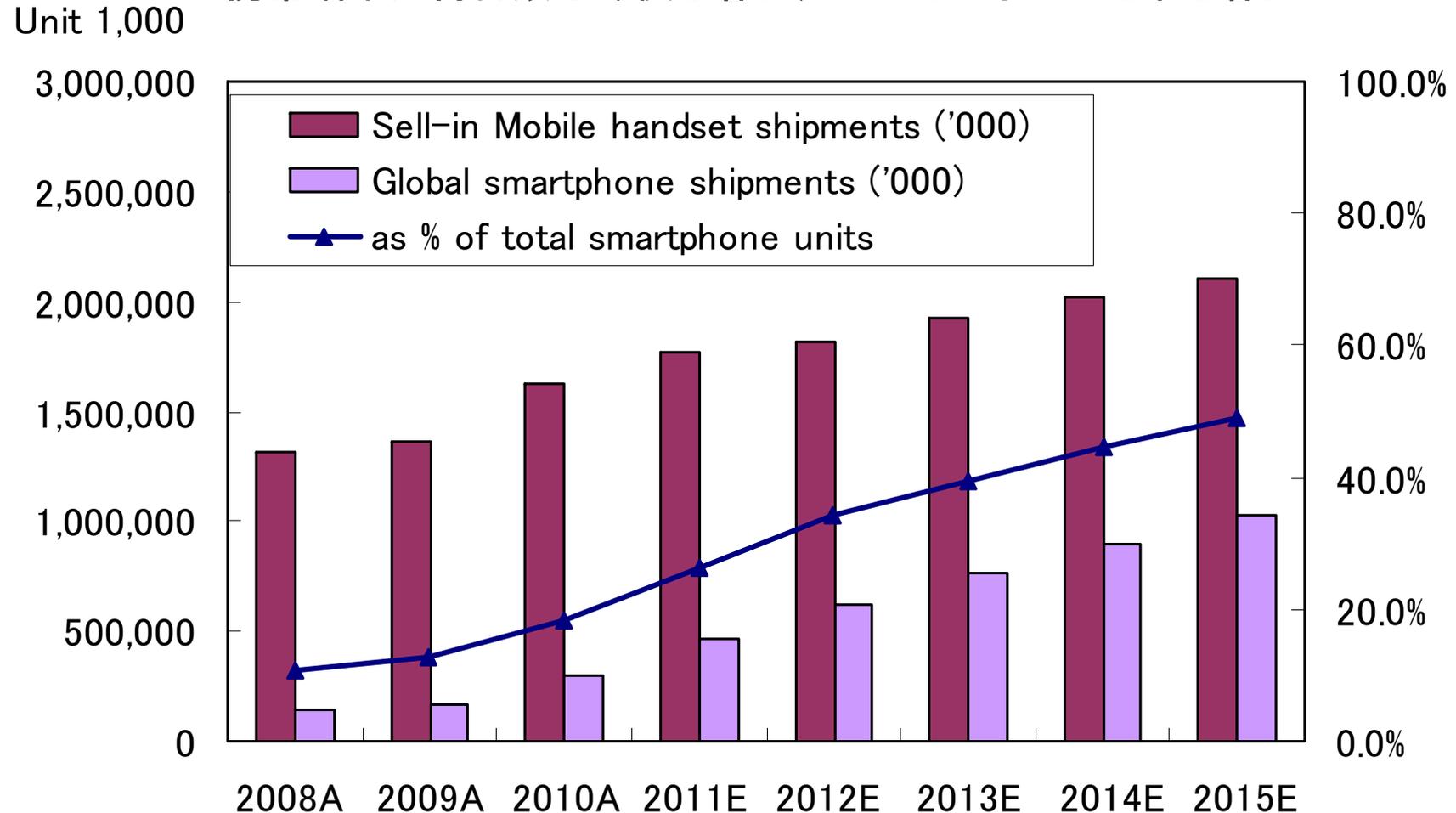


2-2 モバイルブロードバンドの循環



2-3 携帯端末出荷台数の推移

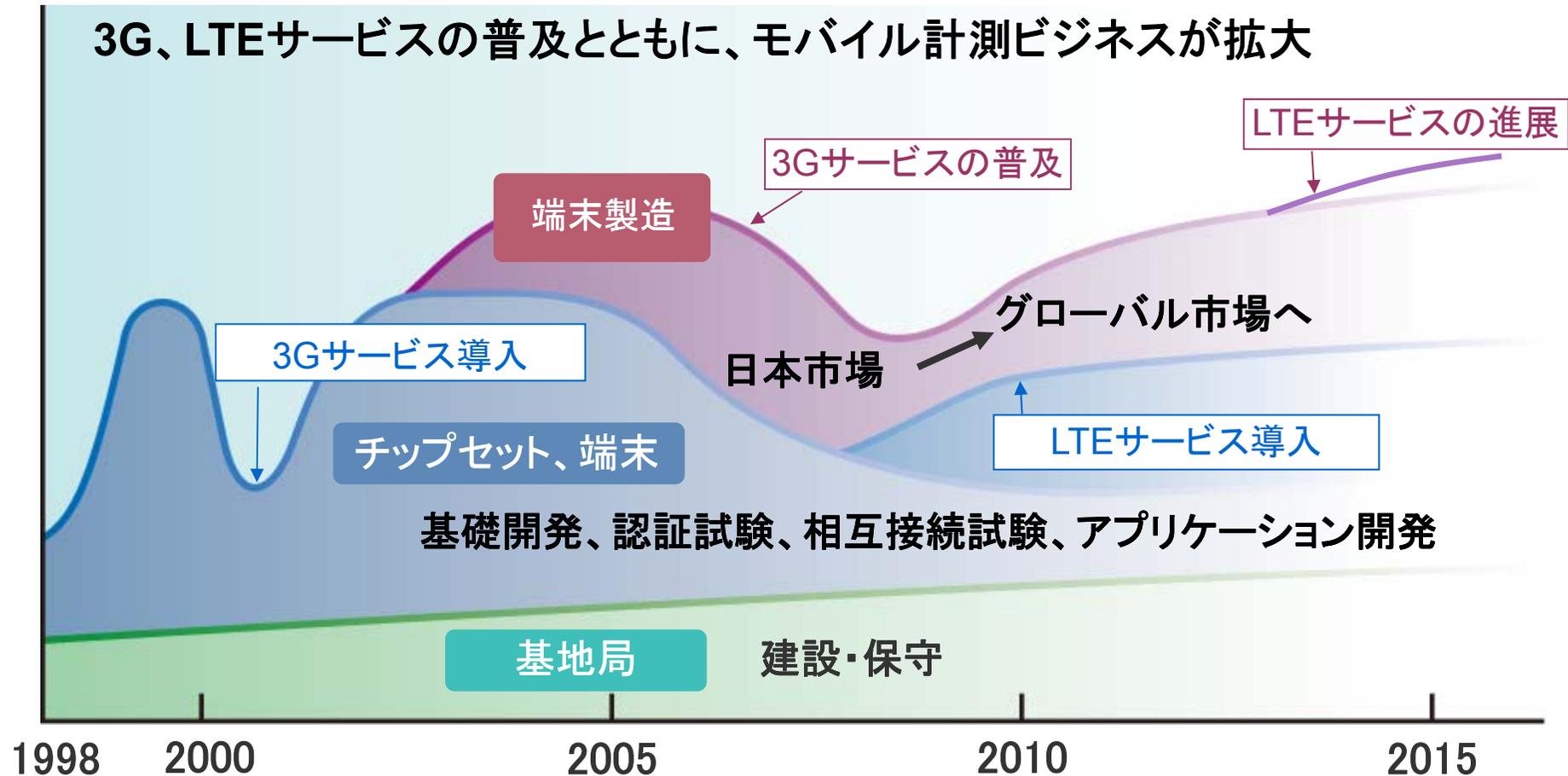
モバイルブロードバンドの進展とともに
携帯端末出荷台数は今後も増加、スマートフォンの比率も増加



出所: Gartner、クレディ・スイス証券

2-4 モバイル計測ビジネスのトレンド

モバイル計測市場(2010年、当社推定): 1,000億円 (製造: 700-800億円、R&D: 200-300億円)



2-5 地域別のLTE関連ビジネス

地域	通信事業者の動向	主な顧客	主な計測用途
日本	NTT DoCoMo: 2010年年末商用化、 スマートフォンを今年投入予定 KDDI: 2012年商用化 Softbank: 2012年以降商用化 (TD方式を検討中)	端末ベンダー 通信キャリア 通信建設業者	FD-LTE方式の量産開発、 相互接続試験 LTE基地局の建設・保守
アメリカ	Verizon: 2010年年末商用化 スマートフォンを投入済み AT&T: 2011年後半LTE商用化	チップセットベンダー 端末ベンダー 通信キャリア 通信建設業者	FD-LTE方式の量産開発 相互接続試験など TD-LTE方式の基礎開発 LTE基地局の建設・保守
EMEA	LTE導入組と3G維持組みが混在 LTE商用化済み: TeliaSonera、 Vodafone(独)、O2(独)など 多くのオペレータは2012年以降に商用化	チップセットベンダー 端末ベンダー 通信キャリア 通信建設業者	チップ・端末の基礎開発/ 量産開発 相互接続試験 基地局の建設・保守
アジア 他	China Mobile、Telecom、Unicom: 3Gを 普及拡大中(3G加入者比率10%以下) China Mobile: 2012年以降TD-LTE 商用化予定 インド等: TD-LTEを採用するオペレータ有	端末ベンダー EMS 通信キャリア 通信建設業者	3G製造 3G基地局の建設・保守 FD-LTE方式の量産開発、 相互接続試験など TD-LTE方式の基礎開発

3. アンリツのLTE関連ビジネス

3-1 LTE向け商品ライン

R&D



MD8430A
Signalling Tester



MS269xA
Signal Analyzer



MG3700A
Signal Generator



MD8475A
Signaling Tester

コンフォーマンス テスト(認証試験)



ME7873L
RF Conformance
Test System



ME7832L
Protocol Conformance
Test System

オペレータ 受入試験



MD8430A
Signalling Tester with
RTD



MF6900A
Fading Simulator



MD8475A
Signaling Tester

製造 検査



MT8820C
Radio Communication
Analyzer

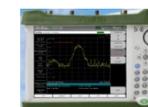


MS2830A
Signal Analyzer

建設 保守



MT8222A
BTS Master



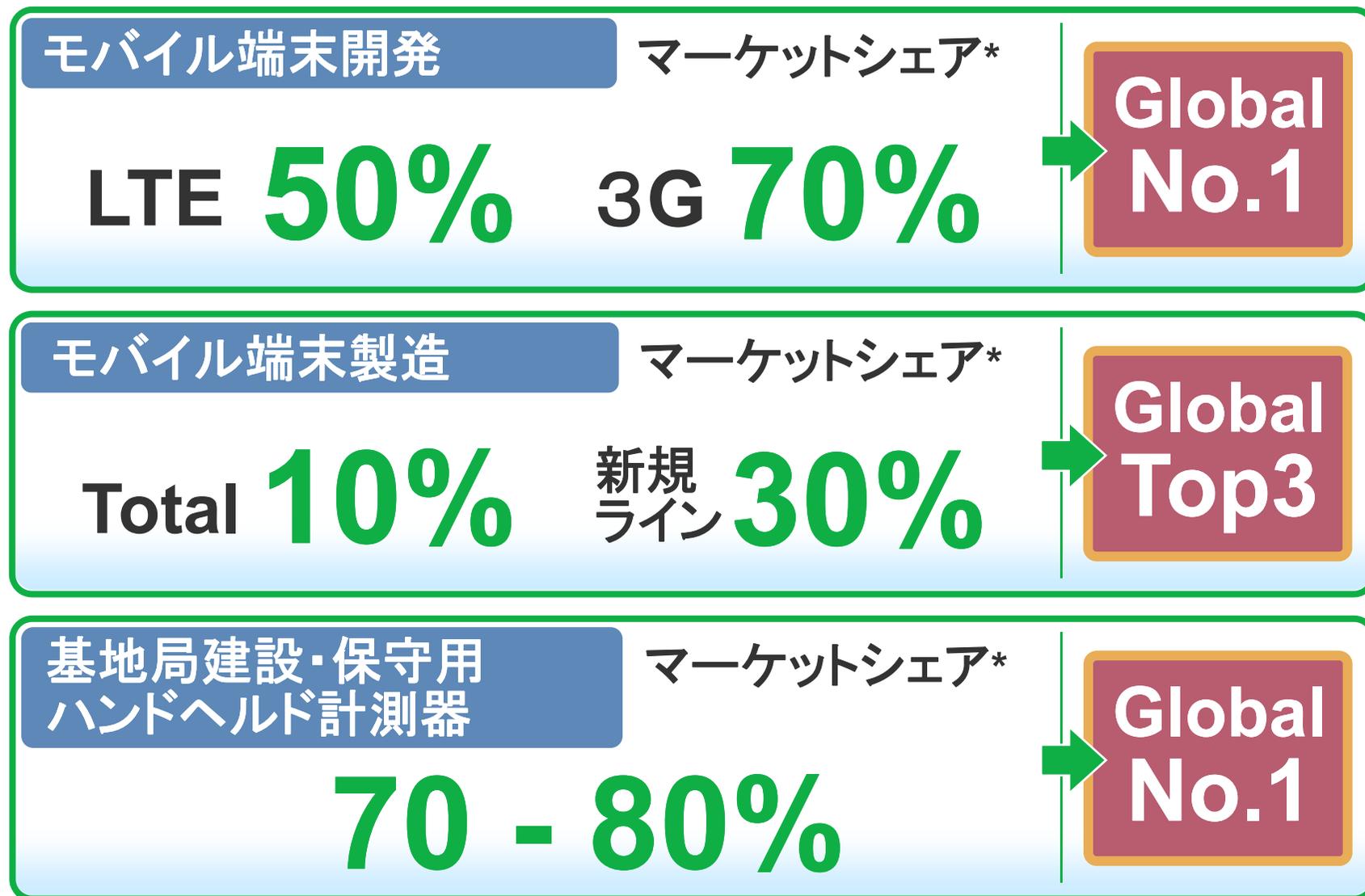
MS271xE
Spectrum Master



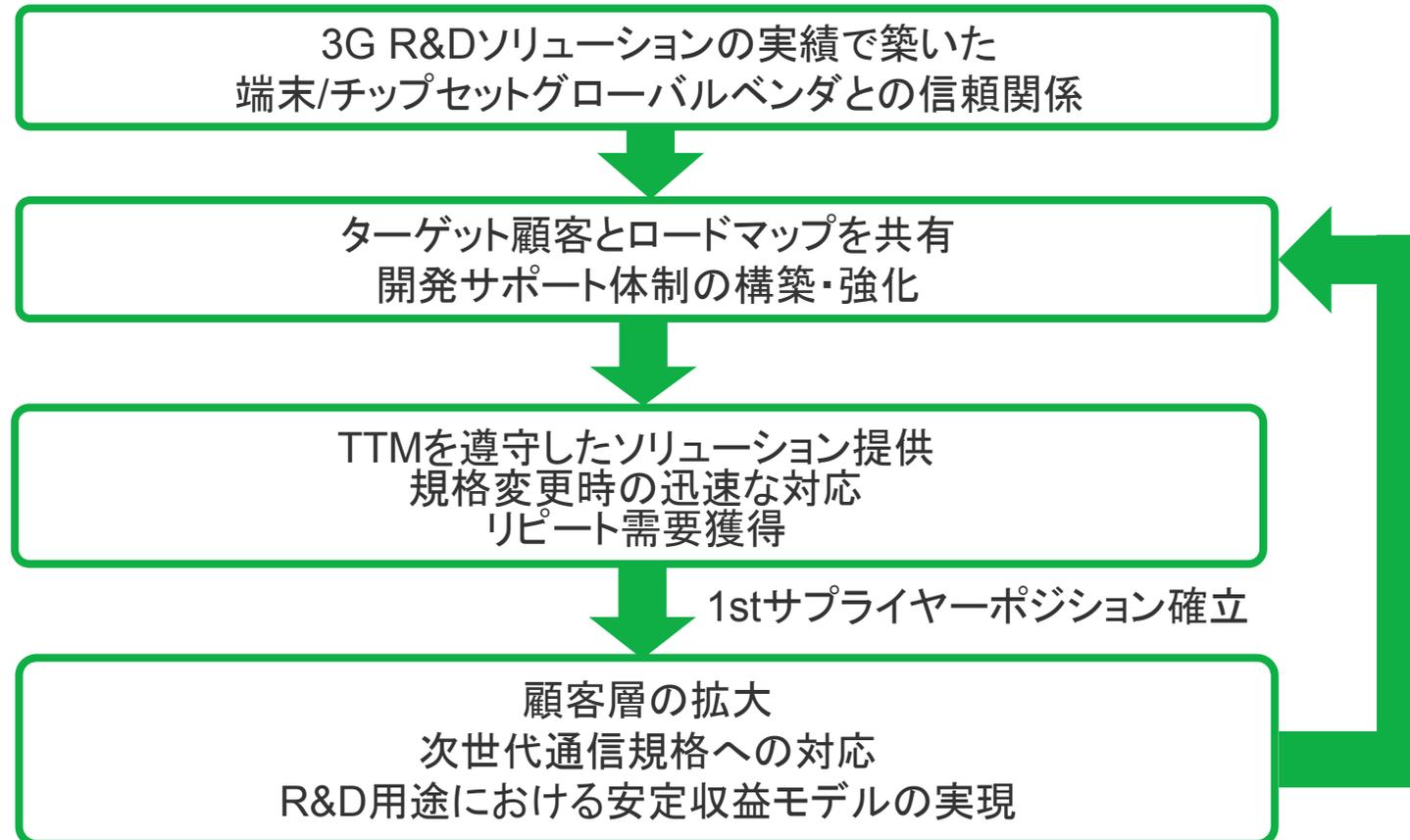
S412D
Site Master

3-2 計測事業の強み

*当社推定



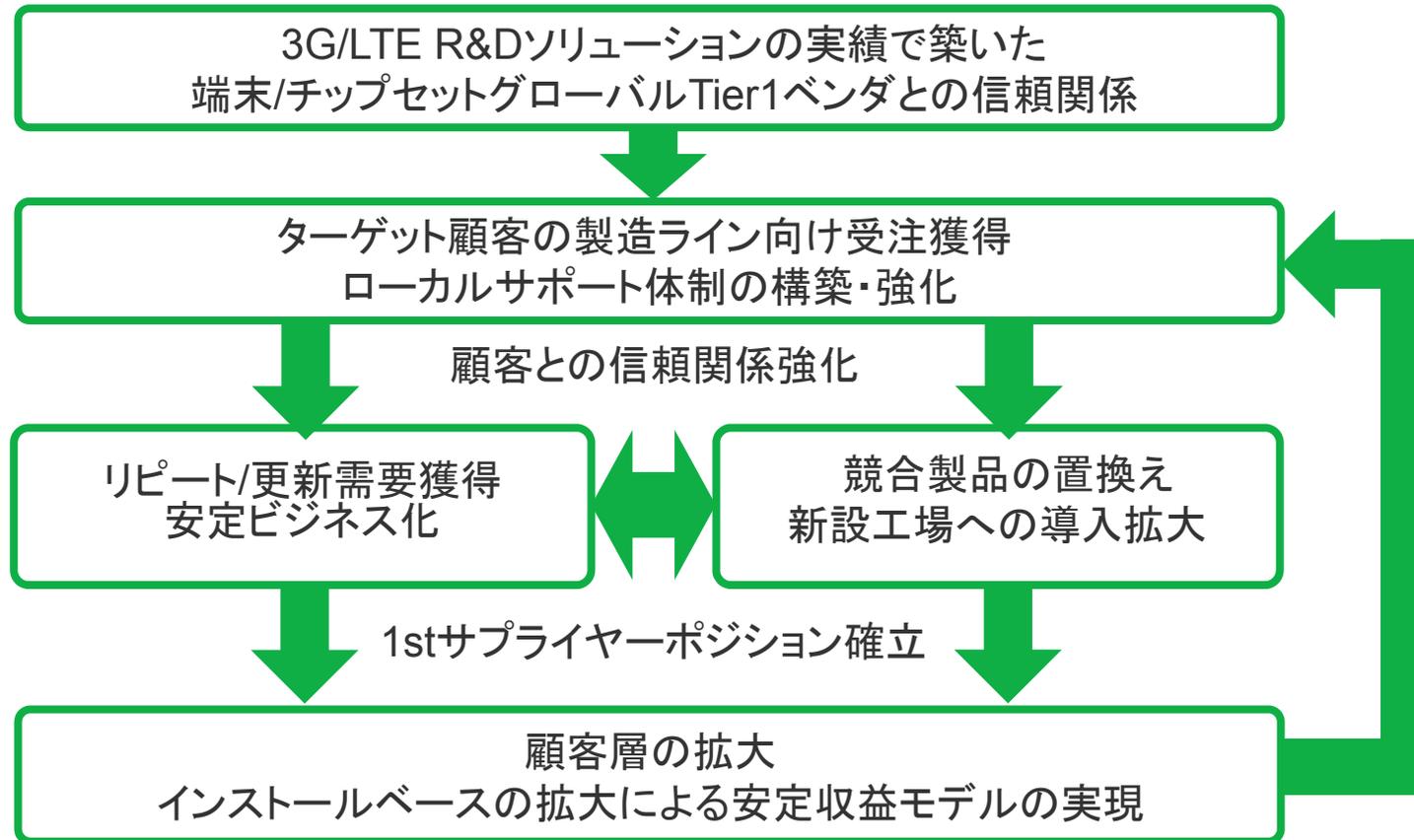
3-3 モバイル端末・チップセットのR&Dビジネスの展開



モバイル端末・チップセットのR&Dビジネスの特徴

- 3GのR&Dビジネスでグローバルシェア70%を獲得しており、LTEのR&Dでもアンリツへの期待は大きい
- ソフトウェアを中心としたオプションの拡充により、利益率の向上が期待できる
- 技術トレンドの投資動向に対応した比較的見通しの良いビジネス展開が可能

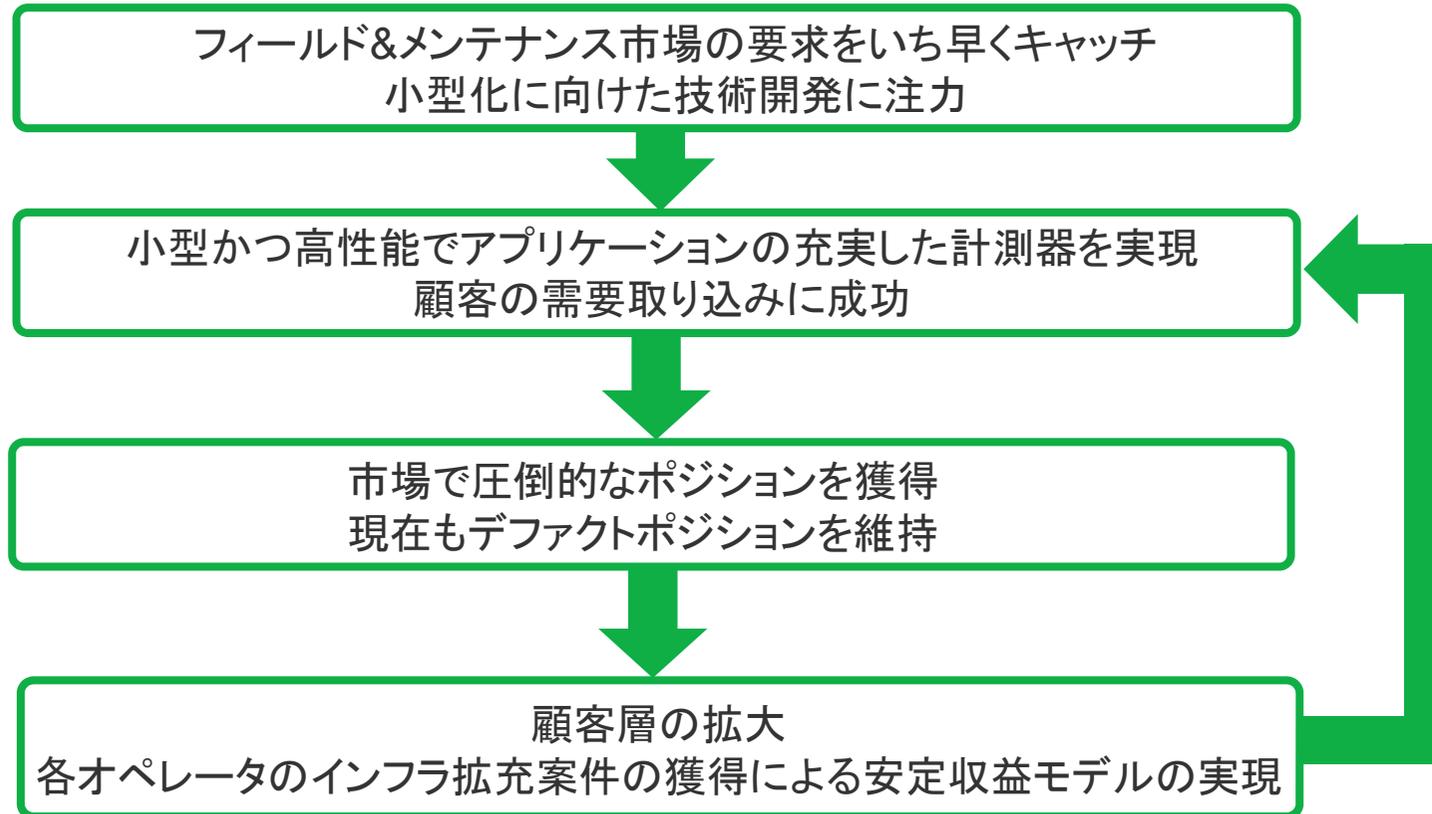
3-4 モバイル端末製造ビジネスの展開



モバイル端末製造ビジネスの特徴

- 市場の2G→3Gシフトは3G/LTEに強みをもつアンリツにとってビジネスチャンス
- 受注のロットサイズが大きく、量産効果による高収益獲得が可能
- インストールからリピート・更新受注につながり、安定的なビジネス展開が可能

3-5 通信インフラ向けビジネスの展開

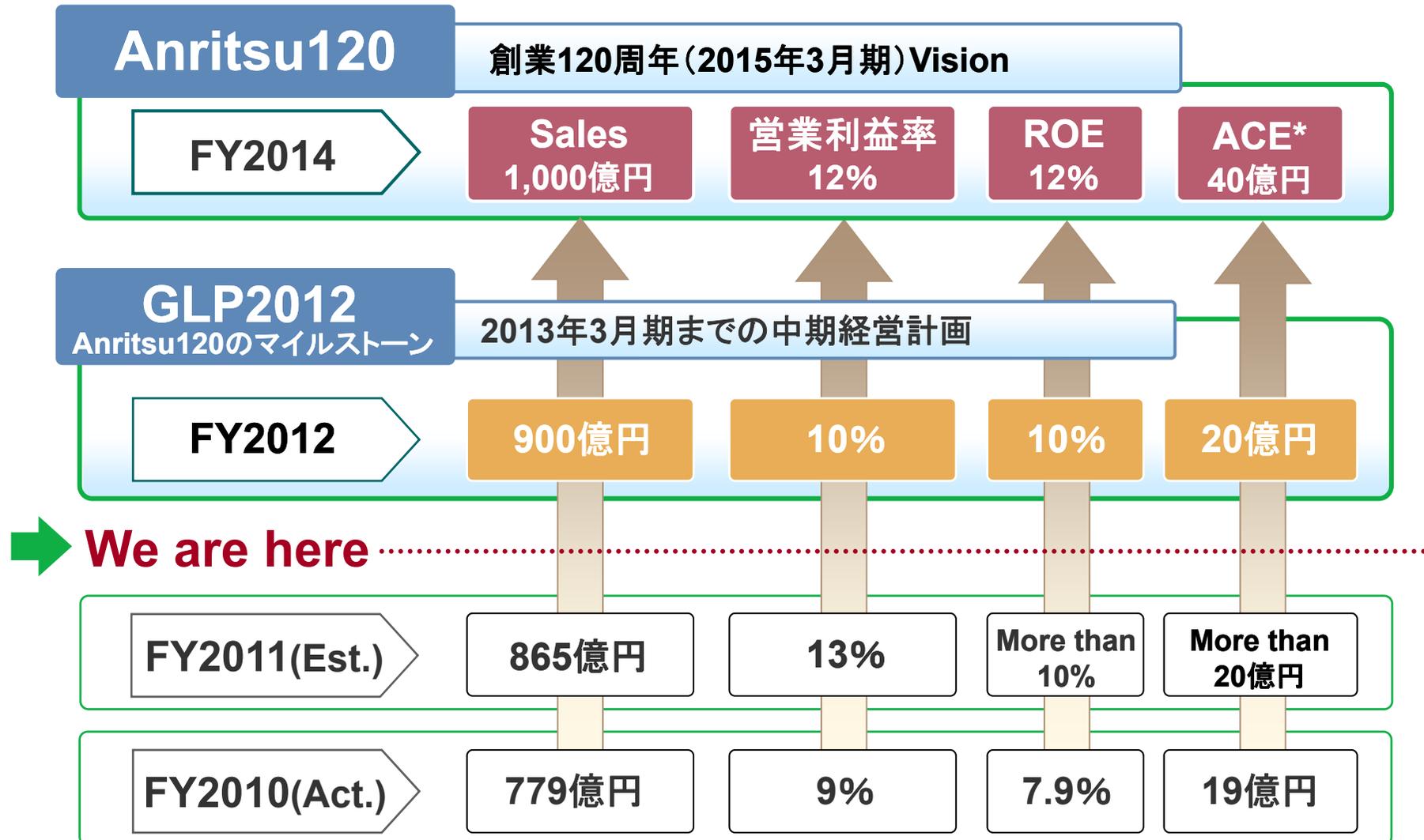


基地局建設保守ビジネスの特徴

- ハンドヘルド型無線計測器のパイオニアとして技術力を強みに現在も高いシェアを維持
- 基地局建設保守は、各国、各地域、各オペレータに存在するビジネスであり、広い地域で安定ビジネスが展開可能

4. 中期経営計画 GLP2012 と Anritsu 120

(計画作成 2010年4月)



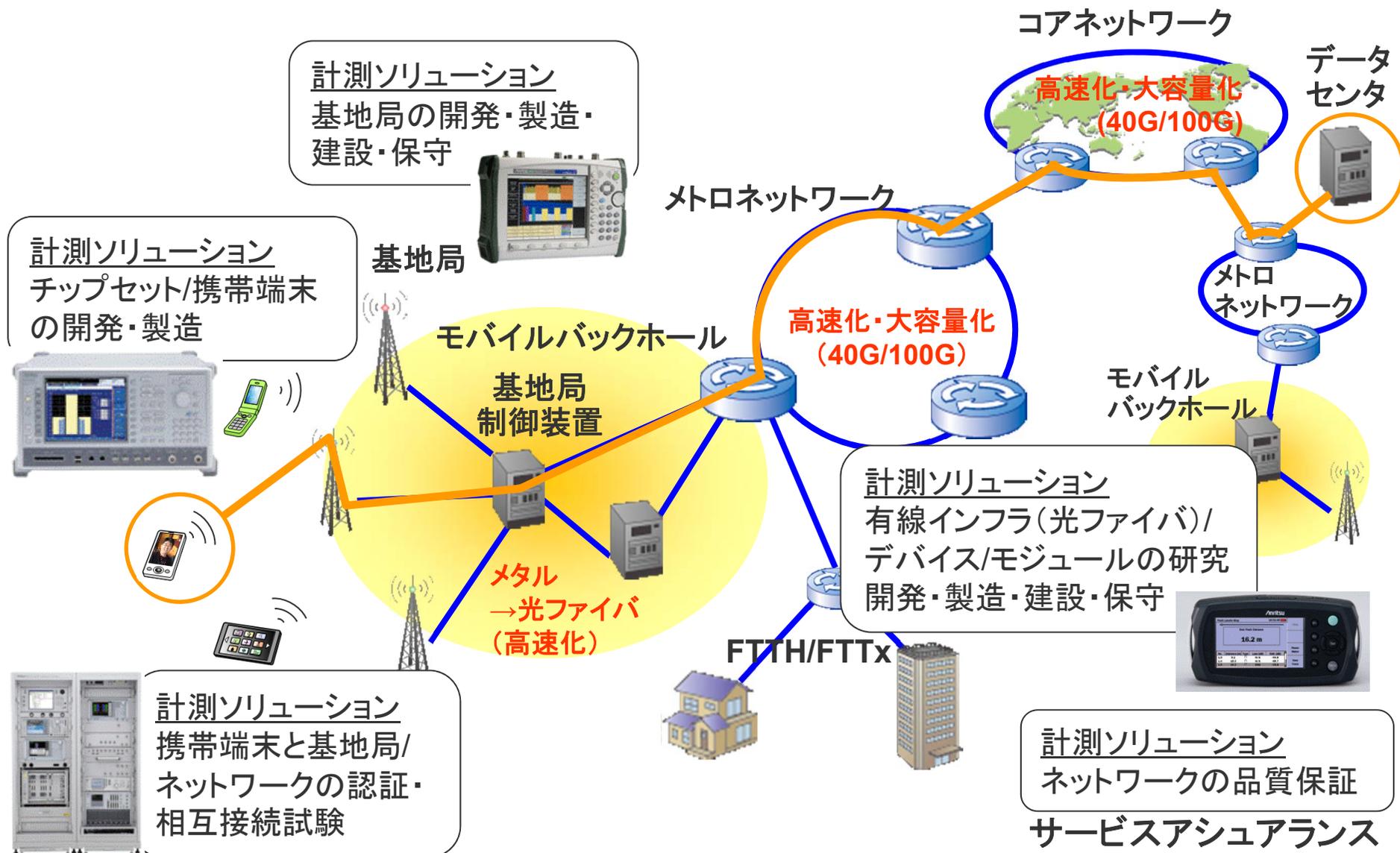
ACE (Anritsu Capital-cost Evaluation): 税引後営業利益－資本コスト

Anritsu

Discover What's Possible™



Appendix (1-1) - 計測事業 ビジネス領域 -



Appendix (1-2) - 計測事業 顧客とマーケットポジション -

	モバイル市場			ネットワーク・インフラ市場		エレクトロニクス市場	
	R&D	製造	保守	R&D	建設・保守	R&D	製造
フォーカス エリア	LTE (端末開発・ 認証試験)	3G/LTE スマートフォン	携帯端末の 修理・保守	40Gbps / 100Gbps 光伝送	無線基地局 光ファイバ敷設 ネットワーク 品質保証・管理	通信用電子部品 / モジュール (携帯端末 / タブレット端末 / カーエレクトロニクス / 家電など) 無線基地局	
主な顧客	携帯端末 / チップセット ベンダー	携帯端末 ベンダー EMS	通信事業者 携帯端末 ベンダー	通信事業者 通信装置 ベンダー	通信事業者 通信建設業者	電子デバイス / コンポーネント ベンダー、通信装置ベンダー、 携帯端末ベンダー など	
グローバル ポジション (当社推定)	LTE開発用 計測市場 シェア50%	3G携帯端末 製造用計測 市場 No.3	日本市場 No.1	光・デジタル 計測器 No.3	無線基地局用 ハンドヘルド 計測器 シェア70-80%	スペクトラムアナライザ、 信号発生器 No.3	

